

「言葉」

菊組 E.T

私は春休み中、一冊の本に出会いました。それは「決断する言葉」という本でした。今回はその本にあった言葉から感じたことを書こうと思います。

一つ目は「できないと思いこんでしまうことをやめてみると人生の選択肢が増える」です。自分には無理だと決めつけていたら、できないことをやろうともせず、いつまでもできないままになってしまおうと思いました。「できなかったらどうしよう」とか「できないってわかってるからやめよう」などと先のことを考えて「できること」をやめてしまうより、まずはやってみることが大切なのだと改めて思いました。「できない」を「できる」にするには自分を変えるようにすることも必要なことだと感じました。

二つ目は、「疲れても、また、たとえ時間がかかっても自分の足で歩こう」です。この言葉の説明にはこう書かれていました。

「今よりもっと幸せになろうと思うなら、自分自身で努力しなければならない。他人の力を頼ったり、楽な道ばかり選んだりしてはいけない。さほど努力をしなくても、うまくいくこともあるだろう。だが、それは表面上のことだ。自分自身で取り組まなかったことに関しては、後で必ずほころびが生じる。自分の幸せは、自分でしっかりとつかむのが最高の道なのだ。」

私はいつも楽しくてなんとかならないかと考えてしまいます。例えば宿題の答えを人に聞いたり、作業をだれかに任せっきりにしたり、自分が楽をしようとすることが多いのです。いつもそうしてはダメだとわかっているけれど、めんどくさいと思ってやらないことがあります。しかし後から考えてみると、楽をした部分はなんとなく、自分のものにできていないような気がします。苦労したらその分だけ理解が深まるし、勉強にしても部活にしてもやった分だけ自分のものにできると思います。どんなことでも自分で努力して行動することから始まるのだと思いました。そうすれば結果はあとからついてくるのかもしれない。

三つ目は「泣いているよりも、笑っている方が人生はずっと豊かになる」です。この言葉はその通りだと思いました。私たちはいつも楽しい事ばかりではなく、つらいことや悲しいこともたくさんあります。人はそういう時に泣くのだと思います。その泣いている時には嫌なことを思い出して、さらに気分が下がります。しかしそんな時に楽しいことを思い出して笑ったら少し楽になるように思います。ずっと泣き続けて、考え込むよりも楽しんでるほうが良いと思います。人生が豊かになるといわれても最初はピンとこなかったけれど、どういうことだろうと考えるうちに、笑って楽しく生きている方がいろいろな事ができるから、その色々な経験が関わっていくのだらうと思いました。

言葉には人の心を動かす力が最も与えられていると思いました。考えてみれば、人に言

われた言葉で動き出して頑張ろうと思えたことがたくさんあるのです。

だれかをはげましたり、怒ったり、勇気づけたりするには言葉が必要です。言葉で言ったり、紙に書いたり、伝え方はそれぞれありますが、原動力となる言葉をだれかが自分に言ってくれたら素直に受けとって考えたいし、自分も相手の心を動かし、相手のためになるような言葉を伝えられるようにしたいと思いました。